



クレジット

主 催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]，岐阜県，大垣市  
助 成：公益財団法人花王芸術・科学財団  
協 力：IAMASタイムベースドメディア・プロジェクト  
配 信：樋口聡一郎 動画記録：園羽山園 広報デザイン：岡澤理奈  
総合ディレクター：大久保美紀（IAMAS）



# 岐阜おおがきビエンナーレ2023〈方法／Method〉

会 場：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

(ソフトピアジャパンセンタービル3階、4階)

会 期：2023年12月7日(木)～12月10日(日) 開館時間：12:00-18:00

入場無料、オンライン配信



## 概要

「岐阜おおがきビエンナーレ2023〈方法／Method〉」は、岐阜県美術館で同時期に開催の展覧会「IAMAS ARTIST FILE #09」と連動し、ゼロ年代初頭の芸術運動「方法」にスポットライトを当てた。IAMASの三輪眞弘教授と松井茂教授は、同時代芸術を批判し、原理や規則による絵画・詩・音楽を発表した「方法主義」のメンバーだった。当イベントはIAMASの創立当初より教鞭を執ってきた三輪眞弘の退任記念イベントの性質を兼ねる。開催期間中、シンポジウムその他、IAMAS学内会場にて「方法」の作品および、資料展示、再演が行われた。とりわけ、学生有志の協力を得て「40048枚の硬貨からなる89736円」（金額第四十二番、中ザワヒデキ、2023）がギャラリーで実現され、有志パフォーマーによる（三輪眞弘、2002）が再演された。

ガムランの歓迎演奏によって幕が開けた第一日目には、「方法」の提唱者である中ザワヒデキの基調講演が行われ、2000から2004年に活動した芸術運動「方法」について議論した。「方法絵画・方法詩・方法音楽 ～方法主義はポストメディウムではない～」と題された講演において、中ザワは『妃』掲載の「方法」の活動と終焉」（中ザワ、2005）に基づき重要な活動を概説。ポストモダニズムの蔓延という同時代的文脈におけるモダニズム回帰の意味を説明した。同時に「方法」への還元は、メディウムの還元により諸芸術を分断した20世紀中葉のフォーマリズムとは異なり、絵画・詩・音楽の連携を可能とした。2004年の幕引きに関しては、方法作品を身体を通じて実現するための「方法マシン」が始動したこと、それらの問題に批判的に応え、同語反復を実践した「新・方法」（2010-2019）がひとつの「方法」の展開であったことが報告された。

翌日の鼎談「真理と方法、再び」は、哲学における「方法」を再考することを通じて、芸術運動「方法」の表現と活動に異なる視座から切り込む意図を持つセッションであった。音楽学者の岡田暁生（京都大学・教授）、美学者の吉岡洋（京都芸術大学・教授）、三輪眞弘（IAMAS・教授）はこれまで、芸術の起源や意味を問い直す重要な鼎談を行ってきた。今回は、吉岡洋からハンス＝ゲオルグ・ガダマーの哲学的解釈学『真理と方法』を着想源に、科学至上主義が追求する「方法」は「真理」に至ることができないと主張したハイデガーの芸術論



に言及した。〈方法のための方法化〉は芸術運動「方法」においても重要な問題である。一方、高度テクノロジーが浸透した現代世界では科学的「方法」が異なる局面を見せている事実にも注目した。(詳しくはpp.37-51)

最終日にはふたつのセッションが開催された。ひとつ目は、対談「方法と瞑想」、もうひとつは、方法マシン同窓会「来れ、集え、マシンとなれ〜！」である。篠原資明は「方法」に先行し、自身の詩作を「方法詩」と名付けたので「方法絵画、方法詩、方法音楽（方法主義第一宣言）」においても言及されている。「瞑想」は一見方法と相容れないような印象を受ける。「光る滝」のイメージで表象される「まぶさび詩」や「超絶短詩」が丁寧に紹介され、篠原資明の美学、試作と瞑想との関係について理解が深まった。松井茂は篠原の美学と表現についての導入において、『Cycle 自転車をめぐる散文詩の試み』（2023）より篠原作品を参照した一節について紹介した。

方法マシン同窓会は、園羽山園が本イベントのために作成した方法マシン年表をもとに、その活動の全貌が明かされた。池田拓実によるソフト部・ハード部の報告では、方法マシンが生身の人間でありながら機械の如く方法作品を身体にインプットするための数々の試み、とりわけ「またりさまソリューションサービス」と呼ばれる、高速「またりさま」実現の練習装置開発の詳細を伝えた。数々の方法作品に出演した担い手のひとりであるIAMAS出身で歌手のさかいれいしうと、鶴見幸代に変わって方法マシン解散まで代表を務めたメディアアーティストの安野太郎からも当時の活動に関する貴重なレポートがあった。

セッション後のディスカッションでは、「方法」提唱者である中ザワヒデキにより、方法マシンは「方法」を終焉に導く象徴的活動であったことが再度指摘された。「方法」の萌芽は、一方で三輪眞弘が深く関わった方法マシンへ伝播し、他方では中ザワヒデキ自身もメンバーとして関わった「新・方法」という批判的継承を産んだ。さて、私たちが問いたいのは、今この2023年の世界において、IAMASで学ぶような若者において、「方法」的思考がいかなる発展を遂げるかだ。

岐阜おおがきビエンナーレ2023 総合ディレクター  
大久保美紀





**登壇者：**池田拓実、岡田暁生、さかいれいしう、篠原資明、中ザワヒデキ、園羽山園、松井茂、三輪眞弘  
安野太郎、吉岡洋、大久保美紀（モデレータ）

### タイムテーブル

12月7日(木)

13:00 開場

13:30－14:00 ガムラン演奏会

14:00－14:15 開会の挨拶

14:15－15:00 中ザワヒデキによる基調講演

「方法絵画・方法詩・方法音楽 ～方法主義はポストメディアムではない～」

15:00－17:00 シンポジウム「方法」

登壇者：中ザワヒデキ、三輪眞弘、大久保美紀（モデレータ）

12月8日(金)

13:30 開場

14:00－17:00 鼎談「真理と方法、再び」

登壇者：岡田暁生、三輪眞弘、吉岡洋、大久保美紀（モデレータ）

12月10日(日)

12:30 開場

13:00－15:00 対談「方法と瞑想」

登壇者：篠原資明、松井茂

15:00－16:45 方法マシン同窓会「来れ、集え、マシンとなれ～！」

登壇者：三輪眞弘、池田拓実、さかいれいしう、園羽山園、安野太郎、大久保美紀（モデレータ）

16:50－17:00 閉会の挨拶

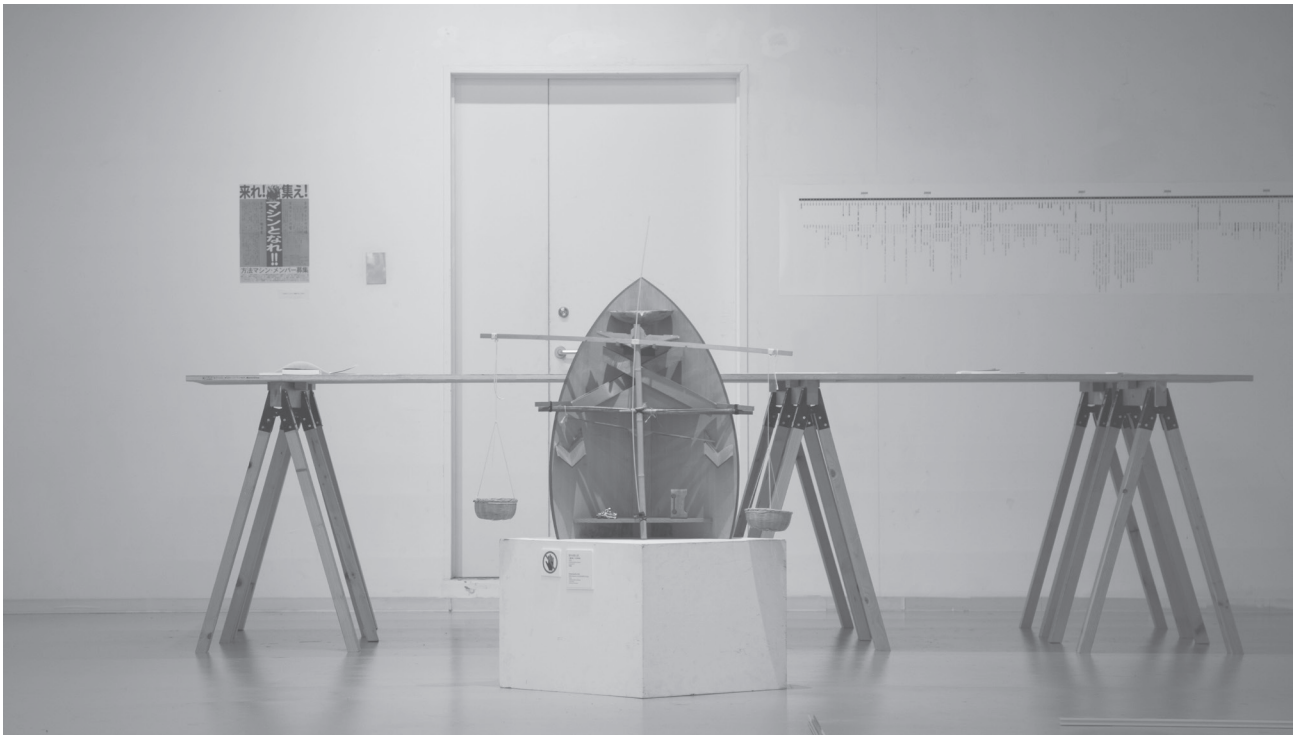
・岐阜おおがきビエンナーレ期間中、「方法」資料・作品 をギャラリー1にて展示した。

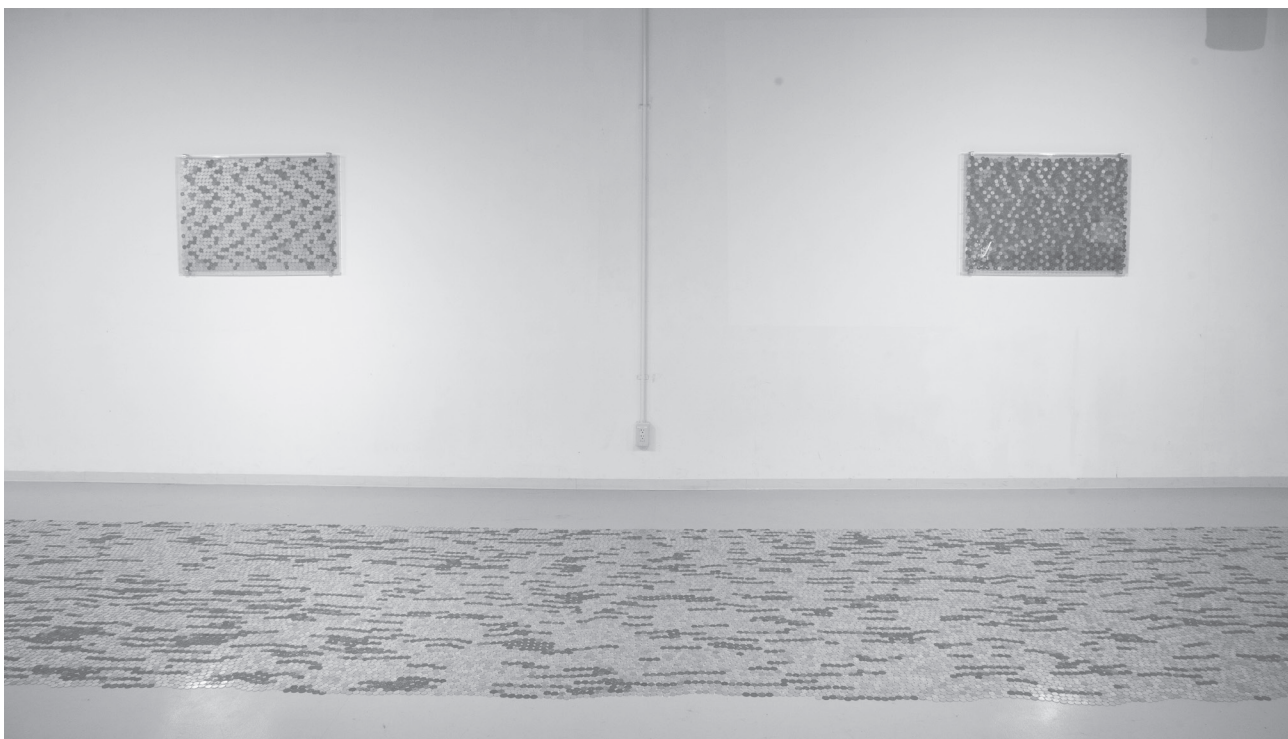
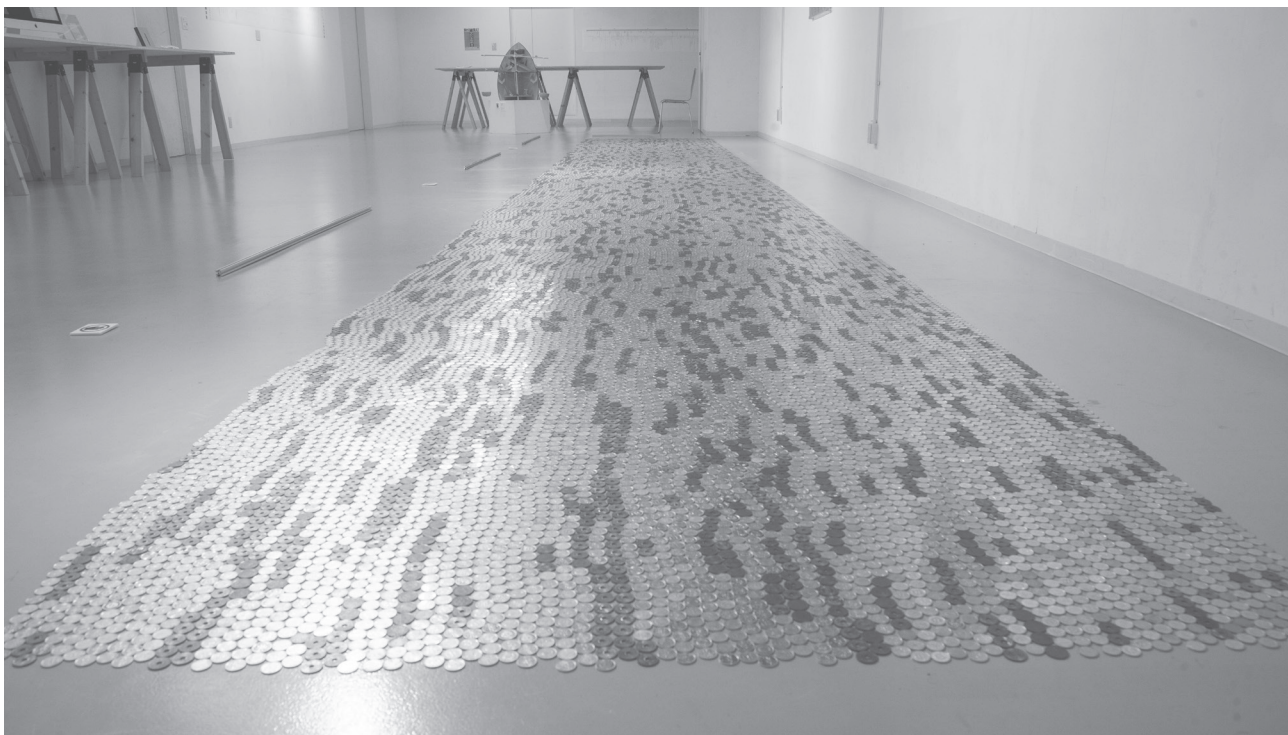
・各セッションはライブ配信された。













## 関連プログラム

「三輪眞弘作品の再演コンサート・トークイベント」

日 時：12月9日(土)14:00－16:00

会 場：岐阜県美術館 多目的ホール

出 演：福井麻衣（ハープ）、東野珠実（箏篋）、三輪眞弘、岡田暁生

演 目：「すべての時間, ハープのための」(初演 2001年)

「蟬の法, 箏篋のための」(初演 2003年)

入場無料、予約不要、本公演のオンライン配信はなし

「方法作品の再演」

日 時：12月24日(日)15:00－17:00

会 場：岐阜県美術館 多目的ホール

出 演：IAMAS タイムベースドメディア・プロジェクト

トーク：足立智美、中ザワヒデキ、三輪眞弘

入場無料、予約不要

pp.52-53：「岐阜おおがきビエンナーレ」ガムラン演奏会。p.56 上：「岐阜おおがきビエンナーレ2023」中ザワヒデキによる基調講演。下：「岐阜おおがきビエンナーレ2023」鼎談「真理と方法、再び」にて吉岡洋。p.57 上：「岐阜おおがきビエンナーレ2023」対談「方法と瞑想」篠原資明。下：「岐阜おおがきビエンナーレ2023」対談「方法と瞑想」松井茂。p.59 上：岐阜おおがきビエンナーレ2023 対談「方法と瞑想」三輪眞弘再演コンサート」にて、左から大久保美紀、三輪眞弘、岡田暁生。下：「岐阜おおがきビエンナーレ2023」方法マシン同窓会。左から大久保美紀、池田拓実、さかいれいしう、三輪眞弘。p.60 上：「岐阜おおがきビエンナーレ2023」にて三輪眞弘《流星礼拝》(2002) 再演。下：手前 三輪眞弘《またりさま人形》(2003)、奥「岐阜おおがきビエンナーレ2023」三輪眞弘資料展示。p.61 上：中ザワヒデキ《40048枚の硬貨から成る89736円（金額第四二番）》(2023) 部分。「岐阜おおがきビエンナーレ2023」展示。下：手前に中ザワヒデキ《40048枚の硬貨から成る89736円（金額第四二番）》(2023) 部分、左奥《1249枚の硬貨から成る5658円（金額第二番）》(2000)、右奥《1107枚の硬貨から成る20523円（金額第一番）》(2000)。「岐阜おおがきビエンナーレ2023」展示。p.52-61撮影：小濱史雄・福島諭ほか。